

はどのような精神状態にあるか？ 兄弟姉妹はどのような精神状態にあるか？

提案事項

カルトについての評価により、カルトが搾取的でないことが示された場合、あるいは信者の若者が正常であり、信者としての状態に一応満足している場合、強制的な手段によって若者を脱会させることは好ましくない。カルトが虐待を行ない、無謀な要求を行ない、信者を危険な状態に陥れている場合、合法的な手段によって介入する必要がある。とくに信者が未成年者の場合にはこのような方法をとらなければならない。前述したが、危険性が明白である場合、裁判所の判断によって、成人の信者であっても強制的な脱会が認められるケースがある。ただし、何を危険であると認めるかによって意見が対立する。また、危険性の申し立てを実際に証明することは非常に困難であり、あえて裁判所に訴えても、脱会の訴えが認められるとは限らない。最悪の場合には、信者の強引な脱会 (kidnapping and involuntary treatment) に失敗した場合、親子間の信頼関係が崩れ、関係をこじらせる危険性がある。合法的な手段ではなく、無理に脱会させようとした場合、親に不利な判決が下される可能性もある。

両親も治療者もさまざまな情報を交換し合った上での理解 (informed understanding) を基本とする共感的態度 (sympathetic attitude) を示すような、青年本人との話し合いが、考え方を修正するのに効果的な場合もある。ほとんどの信者は、両親の脱会の提案に同意しない。たとえ、その提案が誠実で十分根拠があっても簡単には受け入れられないのである。これらの場合には、両親は、本人の成熟プロセス (maturational process) を待たなければならない。本人が成長し、カルトの必要性を感じなくなった時点において、カルトの問題点に気づき、本人の判断によって脱会するのである。このような経過をたどらないケースでは、おそらく、本人にとってカルトは必要かつ有用なものなのである。しかしながら、カルトが有害なものであったにしても、信者を威嚇して逃亡しようという気にさせても何も得ることはないのであろう。

信者がカルト集団から脱会した場合、現実世界への適応は非常に難しい。たとえば、元信者が精神的に正常であっても容易に適応できるものではない。社会的な孤立感を味わい、根無し草の状態となる。現実世界において自分の居場所を取り戻すことに不安を感じるのである。退行が生じ、カルトに入信する以前の症状が再発する可能性がある。この段階における心理療法は、患者に支持的 (supportive) に接し、現実世界への適応を応援し、安定感を自覚できるようになるまで時間をかけて、深層心理的な解釈的作

業はひとまずひかえることである。さらに、カルトに入信していた期間中に外傷体験を受け、苦痛を訴える信者もいる。このような場合には、他の外傷後障害の患者の場合と同様に、患者自身のペースで、過去の経験について回顧 (review) し、自分から語る (retell) 機会を得るようにし、価値判断や親の要求から解放された状態におくことが重要である。このようなアプローチにより、患者は自らの仕方での過去の経験を克服していくのである。

結論

今回の報告においては、いくつかの観点から、現代のカルト現象について公平な分析を行なった。現在広く普及している主要な宗派に関しても、全ての宗派には当てはまらないが、最初はカルトとして発生したことを理解しなければならない。

今回の研究により、下記の結論に到達した：

- 1、カルトには多様な組織が含まれている。我々の法律の範囲内において明らかに許容できる比較的穏和な (benign) 組織から、過激で悪徳に満ちた (malignant) 企業組織まで様々である。このような悪徳に満ちたカルトについては、法的介入によって入信するのを防止する必要がある。
- 2、子供時代から独立した成人の生活への移行プロセスをうまくやり遂げるように若者たちを支援するようなカルト集団は存在しないが、一部のカルトにおいては、青年の発達プロセスに有効な作用を及ぼしている。
- 3、どのような状況であっても、治療者は苦悩を訴える家族のニーズに注意深く取り組むことが必要である。この場合、適切な評価が下されるまで、慎重さと十分な配慮が不可欠である。十分に事情を把握しない段階での性急な介入は、かえって状況を悪化させることになる。
- 4、あらゆる場合において、たとえ最悪の事態においても、家族は、カルト信者となった子供との建設的な会話 (dialogue) の維持が重要である。

カルトの破壊的側面に不安を抱く多数の人々から相談を受けている。精神科医の行動は、精神医学的評価の専門家として、そして精神的治癒を促すものとしての自らの職務に忠実であり続けなければならない。精神科医は、誘惑つまり、より魅力的ではあるが究極的には治癒という面においては効果はうすい「救済者」("rescuer") や「裁判官」("judge") という役割のイメージへの誘惑、をはねのけなければならない。

厚生科学研究費補助金
分担研究報告書

「カルト集団」からの離脱者等に対する支援に関する探索的研究

分担研究者

伊藤 順一郎

研究協力者

野口 博文

国立精神・神経センター精神保健研究所 社会復帰相談部

研究要旨

いわゆる「カルト集団」から脱会した者への相談・支援を継続して行っている機関に対して、支援の状況についてヒアリング調査を行った。相談機関では、メンタルヘルスの問題への対処に加えて、家族関係の調整や社会的なコンフリクトを解消していくために、多様な支援が行われていることが明らかになった。このような支援にあたっては、相談の窓口となる公的機関が、有効な支援活動を展開している民間機関とも連携して、役割分担を行いながらサポートを展開することが重要であることが示唆された。

A. 研究目的

いわゆる「カルト集団」から脱会した者に対する相談・援助のなかで、相談機関がどのような困難を持っているか、また困難な問題を解決していくためにどのような技術や資源が必要になるかについて意見を聞き、今後、当該事例が発生したとき、相談機関が適切に対処することができるシステムづくりに関する情報を得ることを目的とした。

また、「カルト集団」から脱会した者が、相談機関に対して期待している役割について、文献やホームページから得た意見をもとにニーズを推測した。

B. 研究方法

「カルト集団」※1 から脱会した者に対する相談・支援を継続して行っている機関を訪問して、支援担当者へのヒアリングを行った。

ヒアリングの項目は、別紙1に記載したなかから、対象機関によるサービスの内容や相談事例にかんする処遇のプロセスに応じて行った。

対象とした施設は、先行研究やインターネットの情報をもとに、以下の公的機関2カ所・民間機関3カ所とした。

○ 平成11・12年度で受理した当該事例※2 のなか

で、現在においても継続して支援を行っている事例のある機関

児童相談所 1カ所

保健所 1カ所

○ 当該事例にかんする相談を日常的に行っている民間団体※3

・ マインドコントロールについての調査研究を行う非営利団体 (Private sector 1)

・ 特定の宗教団体についての情報提供などを行っている団体 (Private sector 2)

○ 当該事例にかんする相談において実績のあるアメリカ国内の団体※4

American Family Foundation

(アメリカ・フロリダ州)

なお、訪問調査の時期は、平成13年5月?平成14年2月とした。

また、当該者側のニーズを推測するため、主に次の文献やホームページを検索した。

・ Cultic Studies Journal※5

(発行: American Family Foundation)

- ※ 1:本研究における「カルト集団」の定義は、American Family Foundation(1985年)による定義を用いることにした。すなわち、「特定のリーダーによって推進しているグループや運動」であり、「特定の個人や思想、物事に極端な傾倒や献身を示している」「倫理にもとる意識操作やマインドコントロールを用いている」「メンバー、家族、地域社会に実害を与えるか、その可能性を持っている」ものとした。
- ※ 2:平成12年度厚生科学特別研究事業「社会的問題を起こす新たな精神病理に関する研究」において報告があった89機関(155事例)を対象にして、相談・援助の継続状況を調査したところ、3機関よりフォローアップを行っている事例の報告があった。本調査では、このうちヒアリングが可能であると回答があった2機関を対象とした。調査内容については、別紙2に記載した。
- ※ 3:インターネット(search.msn.co.jp)で「カルト集団」からの脱会者を支援している団体を検索し、団体のウェブサイトへのアクセスやリンクの状況により、比較的継続して支援を行っていると思われる2団体を抽出した。
- ※ 4:本団体の2001年定期総会に参加し、相談・支援担当者より意見を聴取した。
- ※ 5:「カルト集団」の全体的な状況や当該問題に関する調査研究の結果を報告することにより、社会への啓発を行うことを目的としている。
- ※ 6:Former cult members support network。脱会後の後遺障害や回復のためのリソースの情報を取り上げている。
- ※ 7:特定の宗教団体からの脱会者により運営。当該団体におけるマインドコントロールの状況や脱会後のストレスなどについて掲載している。

(倫理面への配慮)

対象機関のなかで、児童相談所および保健所、当該事例にかんする相談を日常的に行っている民間団体については、対象者や対応地域などについて特定されないように配慮を行った。

C. 研究結果

1. 相談・支援機関の状況

対象機関を訪問してヒアリングを行った結果は以下のとおりである。なお、本調査で取り上げた民間機関の特徴については、別紙3に記載した。

1) 公的機関

○児童相談所(事例)

母子家庭の母親が当該集団に入会して所在不明となり、児童の養育を放棄していた。児童の在籍する学校より通告があり、一時保護の後、児童養護施設への措置を行った。(児童福祉法第27条-福祉の措置-)

事例では、母親による寄付集めやメンバーの勧誘によって、児童の地域生活のなかでの軋轢とともに、不登校や異性との交遊における非行行為など、母子関係での葛藤や集団生活における不適応が問題となった。

母親の脱会にともない家庭生活を再開させたが、「マインドコントロール」の影響による借金の問題や児童の就学問題などは継続して支援を行っていく必要があり、福祉事務所や教育機関との連携について報告があった。

○保健所(事例)

当該者の精神障害の疑い、および「カルト集団」

のマインドコントロールにより、近隣への迷惑行為が認められ(精神保健福祉法第24条-警察官の通報-)、家庭訪問・調査を行った。

事例では、精神科への入院にかんして家族の理解を得ることが難しく、当該者も介入を拒否して遁走した。その後は生活場所が不明となっている。

当該者に精神障害がある場合、家族単位でのフォロー体制が必要であるが、警察や市町村との情報交換の必要や、適性医療に結び付けるためのエンゲージメントの困難について報告があった。

2) 民間機関

○Private sector 1

マインドコントロールについての調査研究を行う非営利団体。(1994年に設立)

「カルト集団」に入会している者や家族への相談を行うほか、脱会した者に対してグループカウンセリングを行っている。(各月の第3土曜日、午後2時-5時)

内容はメンタルヘルスの問題や「カルト集団」にかんする問題などについて、心理教育的なアプローチで処遇している。必要であれば、レスパイトケアを実施したり、地域の医療機関との連携を行っている。

処遇上の困難としては、脱会後にみられる精神的な問題症状にかんする受療意欲の低下、「カルト集団」について他者へ説明することの葛藤などを挙げている。事例によってリハビリテーションの期間は長期間になるため、支援期間をオープンにしたアセスメントと、家族による包括的な支援が必要と考えている。

○Private sector 2

特定の宗教団体についての情報提供と聖職者による講義、脱会者によるピアカウンセリングを行っている。(1994年に設立)

定期プログラムは、礼拝・講義・フリーディスカッションにより構成されている。(毎週水曜日、午前10時?午後3時)

主に宗教的な視点から当該団体にかんする問題の整理、脱会者および家族に対する心理的なケアを行っている。必要に応じて、訴訟問題への対応や当該団体への要望、脱会・救出を希望する家族に対して、同様の状況にあった家族や脱会者を紹介することもある。

参加が難しい場合には、テープ録音やインターネットで情報提供をしているほか、訪問サービスや近隣のリソース(宗教団体・自助グループなど)へのリネージュを行っている。

○American Family Foundation

「カルト集団」にかんする調査研究・教育を行う非営利団体。(1979年に設立)

スタッフは、教育・心理学・宗教・法律・ジャーナリズムの専門職員、及び150人以上のボランティアによるネットワークから成り立っている。

「カルト集団」によって引き起こされる問題について、以下のプログラムを通して支援を行っている。

・回復プログラム (Project Recovery)

「カルト集団」から脱会した者、及び家族のためのワークショップを開催する。

・啓蒙プログラム (Project Alert)

関連した問題にかんする公共のメディアや、社会的な理解を得るための研究を奨励して、一般市民に対する啓蒙啓発を行う。また、国際的な教育プログラムを通して、聖職者と教育者に入会を予防する教材を提供する。

・養成プログラム (Project Discover)

脱会者を支援する外部機関の専門スタッフを支援し、社会資源の質的な改善を行う。

2. 当事者側のニーズ

ここでは、文献から得られた当事者側のデマンドやニーズを、当事者によって報告された脱会後の後遺障害や実際に利用したサポートの状況をもとに、以下の項目に分類して報告する。

1) メンタルヘルスの問題

脱会後のストレス障害(抑うつやフラッシュバックなど)に対し、一般的な薬物療法のほか、「カルト集団」にかんする専門的なカウンセリングを受けることが望まれる。

また、ピアカウンセリングによる当事者間のサポートや、「カルト集団」から受けた影響について家族の理解を得ることも必要である。

2) 対人関係の問題

家族や友人から隔離された経験や「カルト集団」

のなかで指示されたコミュニケーション、あるいは家族で「カルト集団」に入会していた経験などによって、対人恐怖・ひきこもりなどの適応障害を引き起こす場合がある。

また、「カルト集団」のメンバーであったことや入会時の生活(職歴や友人関係など)の間隙について、他者に説明したり、理解を求めることが難しいことも問題となる。

3) 生活・経済の問題

「カルト集団」によって多額の寄付を強制されたり、社会での経済的活動を停止された者にとっては、経済的な支援が不可欠である。自助グループ等で個人レベルでの支援を行っているところもあるが、脱会後の経済的な保障がないため脱会することができない事例もみられる。

4) 教育・職業の問題

知力や適応力などの低下により、脱会後すぐに復学・復職することは難しい。社会復帰のためのリハビリテーション施設などを利用するとともに、奨学制度や職業訓練などの各種の援助制度を利用できるようなシステムが必要である。

5) 人権・宗教の問題

地域生活のなかで、一般住民との軋轢が生じ、居住や就学を拒否される場合などは、人権と安全保障の両側面から、公的機関の積極的な介入が必要である。一方で、マインドコントロールの後遺障害として、社会に監視されている意識(fishbowl effect)が起きることもあり、当事者側の同意を得て支援を行っていく配慮が必要である。

また、生活に対する価値観を喪失して、再び「カルト集団」に入会してしまうこともあり、宗教教育や聖職者によるカウンセリングなどのニーズは相当程度ある。

D. 考察

本調査では、「カルト集団」からの離脱者等に対する相談・支援のプロセス、および当事者側のニーズを見てきた。

相談機関では、離脱者等が「カルト集団」から受けたマインドコントロールによる問題への対処に加えて、家族関係の調整や社会的なコンフリクトを解消していくために、多様な支援が行われていることが明らかになった。

一方、当事者および家族にとっては、危機介入的な対応では生活領域の安定は望めず、継続して相談・支援を受けることが必要であることがうかがえた。

しかしながら、当該事例に対する相談・支援を継続して行っている公的機関は3カ所と少なかった。これは、調査対象とした精神保健福祉センターや保健所・福祉事務所・児童相談所などが多忙な業務をかかえ、継続的な支援が困難な体制にあることを示唆していると思われる。同時に、「カルト集団」か

らの離脱者のニーズが多様なうえ、スティグマの存在などにより、相談者自身が公的機関での援助からドロップしやすい可能性もある。

また、本研究で報告した事例のように、児童の非行や、本人の精神障害の発症の可能性など、従来からの公的機関の相談業務のなかに還元できる内容については対応を継続することができていた。しかし、脱マインドコントロールといった特殊な状況への対応については困難であるという印象もヒアリングから持った。

このような問題にあたっては、まず脱会者や家族からの相談を受ける公的機関の窓口を明らかにし、対象とする相談の内容について広報することが望まれる。窓口でのインテークでは、「カルト集団」にかんする専門知識を持つスタッフとの協議を行ったり、脱会後の生活場所へのアウトリーチも必要となると思われる。そのうえで、医療や生活、人権など

における当事者のニーズを満たす資源に結び付けていくことが必要である。長期間のフォローに関しては、十分な支援が可能な民間機関との連携も選択肢の一つとして必要であろう。

上述のような考察から、公的機関と民間の援助機関の役割の在り方について、表1のようなモデルを作成した。

公的機関においては、まず、「カルト集団」から離脱した者にかんする情報整理とニーズアセスメントを行うことが期待される。特に、医療や生活支援の必要性についてのアセスメントは公的機関の役割といえる。離脱後の心理的動揺がみられる場合などに、医療機関と協議しながら、当該者の生活する場所に出向いて面接を行うことも必要であると思われる。

表1:「カルト集団」から離脱した者に対する公的機関と民間機関の役割

公的機関	民間機関
○ 脱会した者のインテーク (事例の情報整理とニーズアセスメント)	○ マインドコントロールへの直接介入 (脱会カウンセリング)
○ 社会資源のネットワークを形成 (ニーズを満たす資源に結び付ける)	○ セルフケアの支援 (ダイレクトサービスを提供する)
○ 定期的に事例の状況をフォローする (支援が適切に行われていなければ計画を見直す)	○ 脱会者のセルフヘルプや家族のグループ (インフォーマルな関係による相互支援)
○ 支援活動を通して地域への啓蒙啓発	○ 宗教団体や全国組織、インターネット等による2 次的支援

また、社会的なコンフリクトを抑えて離脱後の問題を解決するように働きかけることも役割として期待される。支援活動を通して地域に介入し、「カルト集団」から離脱した者のリハビリテーションの必要性にかんする啓蒙啓発を行っていくことも必要である。

一方、民間機関では、すでにマインドコントロールへの直接介入(脱会カウンセリング)が実践されているところもあった。スタッフが整っている機関では、離脱後のセルフケアにおいて、公的機関よりも質の高い、継続的な支援を行うことが可能であろう。また、脱会者のセルフヘルプや家族のグループといったインフォーマルな関係による相互支援、および宗教団体や全国組織などによる2次的支援なども民間機関に期待される役割である。

しかし、民間機関の役割については標準化されておらず、また、民間機関の間のネットワークも明確には存在していないようである。連携にあたっては、援助機関の一定の質の保証について検討が必要であろう。

なお、インターネットを利用した取り組みについては、脱会後に生じる孤立感の解消や、「カルト集団」での経験の共有が容易になる一方、入会している者からの中傷や、新たな「カルト集団」による勧

誘なども問題となると思われた。

E. 結語

本研究では、「カルト集団」から離脱した者への対応について探索的な検討を行った。公的機関における継続的な関与は、調査の対象機関ではまれであった。また、当事者のニーズを検討すると、フォーマルな専門的な相談機関に結び付けるといった一般的なケースマネジメントでは、ニーズを十分に満たすことが難しいことが示唆された。すなわち、家族や地域住民、学校や職場、宗教団体など、インフォーマルな社会資源の機能も利用した、継続的なサポートが離脱者の社会参加には必要である。そのために、援助の窓口となる公的機関が、有効な援助活動を展開している民間機関と連携して、役割分担

を行いながらサポートを展開することが重要である。

F. 健康危険情報

特になし。

G. 研究発表

1. 論文発表

特になし。

2. 学会発表

特になし。

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

特になし。

2. 実用新案登録

特になし。

3. その他

特になし。

A 以下の項目について、関係機関にヒアリングを行う

1. 事例の状況に関して（平成13年度調査）

- 相談内容
- 事例がカルト集団から受けていた影響

2. 機関の対応に関して

①エンゲージメント

あなたの機関をこの事例が訪れるために、あなたはカルト集団への対策などで、どのようなことを心掛けましたか？

- 通告・相談があったときに何を確認しましたか
- 他機関等からの情報収集をどのように行いましたか
- 保護者へのアプローチをどうしましたか
- 事例からの事実確認（面接・観察）をどのように行いましたか

②ニーズ

事例のニーズはどのようなことでしたか？
そのニーズはだれのニーズでしたか？

③援助目標

あなたがこの事例と関わり始めたころにたてた、援助の目標はどのようなものでしたか？
短期目標・長期目標はどのようなものでしたか？

- 各種診断はどのようにたてましたか
- 処遇指針はどのように作成しましたか

④初期対処

最初の段階として、この事例と始めたことはどのようなことでしたか？
いつ、だれと、どこで、なにを、どのように行いましたか？

- 事例への心理的援助はどのように行いましたか
- 保護者への援助をどのように行いましたか

⑤アウトカム

この事例とのかかわりの成果はどのようなことですか？
その成果はどのようにしてもたらされたのですか？
その成果が生じたことで起きてきた、その他の変化にはどのようなものがありますか？

3. コンフリクト・援助において障害となったもの

どのような困難が、この事例との関わりの中で持ち上がりましたか？
それを解決・解消するために、あなたのしたことはどのようなことでしたか？

4. リソース

あなたがこの事例に関わるに際して、役に立ったリソースはどのようなものですか？

5. 課題

この事例にこれからも課題があるとすれば、それはどのようなことですか？

B 機関の対応に際して、どのような困難が生じたか

C 今後、どのような取り組みを行うことが望ましいか

D リハビリテーションのために、どのようなケアやサービスが必要か

平成 13 年 9 月 21 日

関係機関 各位

国立精神・神経センター精神保健研究所
社会復帰相談部 部長 伊藤 順一郎

調査協力のご依頼（伺い）

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

昨年度は、厚生科学特別研究事業「社会的問題行動を起こす新たな精神病理に関する研究」にご協力いただき、ありがとうございました。

さて、国立精神・神経センター精神保健研究所 社会復帰相談部では、昨年度の調査報告（平成 13 年 6 月 25 日付にて送付）をもとにして以下の再調査を予定しています。本調査によって、いわゆる「カルト集団」から脱会した者についての詳細な状況を把握し、当該事例に対する適切なメンタルヘルスサービスの在り方を検討していきたいと考えています。

つきましては、別紙 対象事例の状況および調査への協力範囲 にご記入のうえ、10 月 12 日（金）までに同封の封筒に入れ、ご返送いただきますようお願い申し上げます。なお、本調査にご協力いただける場合には、追ってご連絡いたしますのでよろしくお願い申し上げます。

敬具

記

1. 調査の目的

「カルト集団」から脱会した者に対する相談・援助のなかで、相談機関がどのような困難を持っているか、また困難な問題を解決していくためにどのような技術や資源が必要になるかについて意見を聞き、今後、当該事例が発生したとき、相談機関が適切に対処することができるシステムづくりに関する情報を得る。

2. 調査の対象

現在、「カルト集団」から脱会した者に対する相談・支援を継続して行っている機関

3. 調査の内容

相談機関が行った処遇のプロセス、および処遇上生じた問題

4. 調査の方法

対象機関を訪問して支援担当者への聴き取りを行う。

調査の時期は、平成 13 年 10 月？平成 14 年 3 月とする。

5. 倫理面への配慮

個別事例のプライバシーに関する質問は行わず、相談機関の支援の状況、または当事者のニーズなどについて聞き取りを行います。「カルト集団」の名称、対応地域などについては特定されないよう配慮を行います。

6. 本件に関する照会

国立精神・神経センター精神保健研究所 社会復帰相談部 野口までお願いいたします。

電話番号：047（372）0141（内線 1330）

以上

対象事例の状況および調査への協力範囲

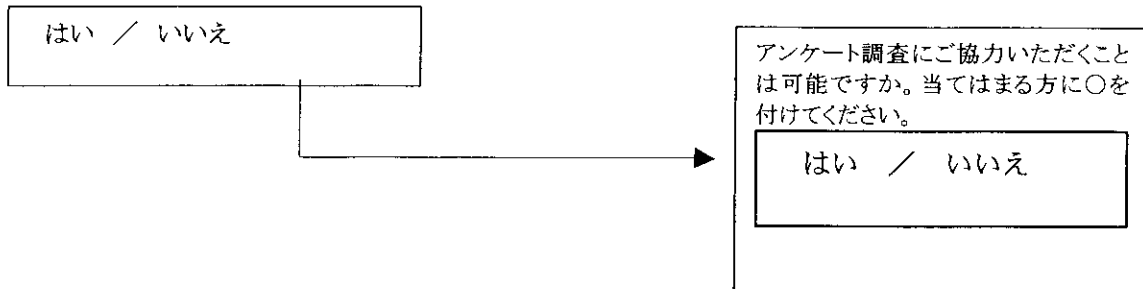
この質問は、平成 12 年度調査において、「カルト集団」との関係の問題とする
相談事例がみられた公的機関を対象としています。

1. 現在、「カルト集団」から脱会した者に対して相談・支援(フォローアップを含む)を行っていますか。当てはまる方に○を付けてください。



「はい」と答えた機関は、以下の質問にお答えください。

2. 貴機関を訪問して、支援担当者への聴き取りを行うことは可能ですか。当てはまる方に○を付けてください。



3. 「カルト」集団から脱会した者、あるいは家族への聴き取りを行うことは可能ですか。当てはまる方に○を付けてください。

はい / いいえ

4. 本調査に関するご意見、個別事例の状況など、ご自由に記入してください。

貴機関の名称	
記入者の名前	
問い合わせ連絡先	

ご協力ありがとうございました。

本調査で取り上げた民間機関の特徴

1. 名称

Private sector 1	Private sector 2	American Family Foundation
------------------	------------------	----------------------------

2. 設置主体

個人による	宗教団体に関係する	財団による
-------	-----------	-------

3. 運営方法

カウンセリング、施設使用等の費用により運営	講義の受講料などにより運営	会員による会費・寄付により運営
-----------------------	---------------	-----------------

4. スタッフ

脱会カウンセラー	聖職者および特定の宗教団体を脱会した者	心理学や法律学などの専門スタッフ及びボランティア
----------	---------------------	--------------------------

5. 活動目的

マインドコントロールについての調査研究	特定の宗教団体についての情報提供と聖職者による講義	「カルト集団」にかんする調査研究・教育
---------------------	---------------------------	---------------------

6. 活動内容

<ul style="list-style-type: none"> ・ 入会している者や家族への相談 ・ 脱会した者に対するグループカウンセリング ・ 脱会後のレスパイトケア 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特定の宗教団体についての情報提供 ・ 聖職者による講義、脱会者によるピアカウンセリング ・ 脱会を希望する家族に対してリソースの紹介や訪問サービス 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 脱会した者および家族のためのワークショップ ・ 一般市民に対する啓蒙啓発 ・ 脱会者を支援する外部機関の専門スタッフを支援
---	---	---

7. ネットワーク

地域の医療機関と連絡会議を行っている。 家族を中心としたインフォーマルなネットワークを形成している。	訴訟問題にかんして弁護士団体とネットワークを行っている。 訪問サービスや近隣のリソース（宗教団体・自助グループ・同様の状況にあった家族など）を紹介している。	ボランティアにより情報提供などのサービスを行っている。 脱会者に対して専門クリニックなどへのリンケージや、社会資源の質的な改善のためのアドボカシーを行っている。
---	---	---

8. メンタルヘルスの問題にかんする支援（課題）

精神的な問題症状にかんする家族の不安や、「カルト集団」について説明することの葛藤などにより、医療機関へのリンケージが困難になることがある。本人の受療意欲を高めるためにも、専門スタッフとの連携が必要となっている。 また、脱会後のケアは長期間になることもあるため、リハビリテーションのための施設の設置が望まれる。	夫婦間の葛藤や子どもに対するネグレクトなど、家族関係に及ぼす影響がみられる。脱会後には、家族療法などの心理学的なアプローチも必要である。 また、脱会のための危機介入の必要がある場合などには、メンタルヘルスの専門知識をもった対応が望まれる。	ダイレクトサービスとして、電話相談や E-mail による照会を受けるほか、専門機関へのリンケージを行っている。 また、定期的にワークショップを開催したり、公共のメディアを通して、精神的な後遺障害にかんする情報提供を行っている。
---	--	---

Ⅲ. 研究成果の刊行に関する一覧表

なし

Ⅳ. 研究成果の刊行物・別刷

なし

ストレス対処行動に関するアンケート

A

人間関係の希薄化がもたらした精神保健問題に関する研究班
(厚生科学研究)

注意事項

- 1 このアンケートは、表紙に示した研究目的で実施しているもので、プライベートな情報に関しましては、一切公表いたしませんので、ご了解ください。
- 2 上記の目的により匿名性を確実にするため、氏名、出席番号等の、個人識別情報に関しては、記入項目をもうけておりませんので、ご安心ください。
- 3 アンケートは、I?Vまでの五つのセクションにわかれています。それぞれのセクションが互いに関連し、未記入項目がありますと、アンケートが無効となってしまうこともありますので、全項目の記入をよろしく願います。
- 4 記入は、全てが、1?5などの順位数字、もしくはハイ、イエエに○をつけていただく形式となっております。各セクションの設問によっては、1が「あてはまらない」になっていたり、1が「あてはまる」になっていたり、順位が逆に設定してあることがありますので、間違われぬようにご注意ください。
- 5 答えに迷うようならば、直観でつけていただくようお願いします。例えば、3か4かで迷ったときに、中間に○とつけたりせず、必ずどちらかの数字に○をつけてください。
- 6 各セクションの冒頭に、それぞれのセクションの説明、注意、答え方が書いてあります。よく読んでお答えください。
- 7 表紙のA、Bの表記は、後の統計処理のため、ランダムに割り振ってあるもので、内容に関係はありません。

最初に予備質問をさせていただきます。

1 年齢を教えてください。

歳 ヶ月

2 性別を教えてください(どちらかに○をつけてください)。

男 女

3 ご兄弟について教えてください
(いらっしゃらない場合は0人としてください)。

兄 人

姉 人

弟 人

妹 人

4 ご両親について教えてください(どれかに○をつけてください)。

父 — 健在 死亡 離別 継父

母 — 健在 死亡 離別 継母

5 上記以外に同居しておられる方がいらっしゃったら、
○をつけてください。

祖父 祖母 叔父 叔母

その他の親戚 人 親戚以外 人

I いろいろな出来事について対応のしかたは人によってさまざまです。苦しくて、つらい出来事が起こったときのいろいろな対処方法のリストを下に掲げました。苦しくて、つらい状況が起こったときに、それぞれの対処方法を自分がどれだけ用いるか、もっともあなたに当てはまる番号ひとつに○をつけてください。

- | | | |
|-------------|-------|---|
| したことがない | | 1 |
| まれにそうする | | 2 |
| ときどきそうする | | 3 |
| 大体いつもそうしている | | 4 |
| いつもそうしている | | 5 |

- | | | | | | | |
|----|-------------------------------------|---|---|---|---|---|
| 1 | もっと上手に時間の予定を立てる | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 2 | 問題に焦点を当てて、どうすれば解決できるかを考える | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 3 | 以前の良かった頃のことを考える | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 4 | 他の人と一緒にいるようにする | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 5 | グズグズしていることで自分を非難する | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 6 | 自分がベストだと思うことをする | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 7 | 体のアチコチが痛いことにとらわれる | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 8 | こんな状況におちいったことで自分を非難する | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 9 | ウィンドウショッピングをする | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 10 | 何を優先すべきかをはっきりさせる | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 11 | 寝ようとする | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 12 | 好物の食べ物やスナックを買う | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 13 | うまく対処できないのではないかと不安に思う | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 14 | 非常に緊張する | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 15 | 類似の問題を今までどのように解決してきたかを考える | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 16 | 問題は本当は自分に起こっていないのだと
自分に言いかけようとする | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 17 | 今の状況についてあまりに感情的になっていると
自分を非難する | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 18 | 食事か喫茶に外出する | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 19 | 腹が立つ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 20 | 何か買い物をする | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

したことがない	1
まれにそうする	2
ときどきそうする	3
大体いつもそうしている	4
いつもそうしている	5

21 行動の方針をたてて、それに従う	1	2	3	4	5
22 何をすべきかわかっていないことで、自分を非難する	1	2	3	4	5
23 パーティに出かける	1	2	3	4	5
24 状況を理解しようと努力する	1	2	3	4	5
25 身がすくんで、何をすべきかわからなくなる	1	2	3	4	5
26 直ちに改善策をとる	1	2	3	4	5
27 出来事をふりかえり、失敗から学ぶ	1	2	3	4	5
28 何が起こったか、あるいは自分がどう感じたかを 変更できればと望む	1	2	3	4	5
29 友人を訪問する	1	2	3	4	5
30 何をしようか心配する	1	2	3	4	5
31 特別な人と時間を過ごす	1	2	3	4	5
32 散歩する	1	2	3	4	5
33 そんなことは二度と起こらないと自分に言いきかせる	1	2	3	4	5
34 自分の力量不足に焦点を当てる	1	2	3	4	5
35 自分が尊重できる助言をくれる人に話す	1	2	3	4	5
36 何か反応する前に問題を分析する	1	2	3	4	5
37 友人に電話する	1	2	3	4	5
38 怒る	1	2	3	4	5
39 物事の優先順位を修正する	1	2	3	4	5
40 映画を見る	1	2	3	4	5
41 状況を支配下におく	1	2	3	4	5
42 物事をなしとげるためにより一層努力する	1	2	3	4	5
43 問題に対していくつかの異なる解決を考える	1	2	3	4	5
44 休みや休憩をとって、状況から離れる	1	2	3	4	5
45 人にやつあたりする	1	2	3	4	5
46 自分ではできるのだと証明するために状況を利用する	1	2	3	4	5
47 事態を掌握できるように、考えを整理する	1	2	3	4	5
48 テレビを見る	1	2	3	4	5

II まず、以下の項目に記入してください。記入を終えたら、—回答の仕方—を読んでください。

あなたはタバコをすいますか？ はい いいえ

あなたはお酒を飲みますか？ はい いいえ

—回答の仕方—

例：私は女性である。

私には全然当てはまらない 1 2 3 4 5 6 7 8 9 私にまったく当てはまる

上の例では、あなたが女性なら9を○で囲むことになります。男性ならば1を○で囲むことになります。88の質問事項がありますので、各々の記述に対するあなたの賛成の程度を判断し、1~9のいずれかの番号を○で囲んでください。

では、回答を始めてください。

- | | | | | | | | | | | |
|----|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 私は他人を助けることで満足を得る。もし助ける機会を取り上げられたら、気分が沈むだろう。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |
| 2 | すぐにすねると人から言われる。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |
| 3 | 問題を処理する時間ができる時まで、その問題を考えないようにしておける。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |
| 4 | いつも不公平な扱いを受ける。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |
| 5 | 不安を抑えるために何か建設的かつ創造的なことをする(例えば描画や工作)。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |
| 6 | 時々今日すべきことを明日まで引き伸ばす。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |
| 7 | 同じような不満を感じる状況に何度も出会うが、なぜそうなるのか分からない。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |
| 8 | 自分の失敗を笑いに換えることが容易にできる。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |
| 9 | 思うようにならない時に子どものようにふるまう。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |
| 10 | 自己主張するのが苦手だ。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |
| 11 | 自分が知っている大部分の人よりも優れている。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |
| 12 | 人に利用されることが多い。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |
| 13 | もし誰かが私を襲ってお金を盗んだとしても、罰せられるより犯人がそのお金で助かることを望む。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |

私には全然当てはまらない 1 2 3 4 5 6 7 8 9 私にまったく当てはまる

- 14 時々、人に言えないような悪いことを考える。 1 2 3 4 5 6 7 8 9
- 15 時々、下品な冗談を聞いて笑う。 1 2 3 4 5 6 7 8 9
- 16 不愉快な事実を、それがまるで存在しないかのように
無視する傾向がある。 1 2 3 4 5 6 7 8 9
- 17 人と争ってまで何かをしたいとは思わない。 1 2 3 4 5 6 7 8 9
- 18 一緒にいる人達より優れているとしばしば感じる。 1 2 3 4 5 6 7 8 9
- 19 人に尽くしてばかりいる。 1 2 3 4 5 6 7 8 9
- 20 時々、怒りを覚える。 1 2 3 4 5 6 7 8 9
- 21 しばしば衝動行為に駆り立てられる。 1 2 3 4 5 6 7 8 9
- 22 無理矢理食べさせられる位なら腹ペコの方がまだ。 1 2 3 4 5 6 7 8 9
- 23 自分がまるで不死身であるかのように危険を無視する。 1 2 3 4 5 6 7 8 9
- 24 うぬぼれている人の鼻をへし折る能力は私の誇りだ。 1 2 3 4 5 6 7 8 9
- 25 被害妄想であると人から言われる。 1 2 3 4 5 6 7 8 9
- 26 気分が良くない時は、時々怒りっぽくなる。 1 2 3 4 5 6 7 8 9
- 27 何かに悩まされている時には、
しばしば衝動的に行動する。 1 2 3 4 5 6 7 8 9
- 28 物事がうまくいかない時には体の具合が悪くなる。 1 2 3 4 5 6 7 8 9
- 29 とても内気な人間だ。 1 2 3 4 5 6 7 8 9
- 30 私は人をこきおろすのが得意である。 1 2 3 4 5 6 7 8 9
- 31 私がいつでも本当のことを言うとは限らない。 1 2 3 4 5 6 7 8 9
- 32 傷ついた時には、自分の殻に閉じこもる。 1 2 3 4 5 6 7 8 9
- 33 他の人から制限を加えられるほど、
私はしばしばやり過ぎてしまう。 1 2 3 4 5 6 7 8 9
- 34 お調子者だと友達から思われている。 1 2 3 4 5 6 7 8 9
- 35 怒った時には自分の殻に閉じこもる。 1 2 3 4 5 6 7 8 9
- 36 予想以上に親しくしてくる人に警戒心をもちやすい。 1 2 3 4 5 6 7 8 9
- 37 問題なく人生をやり過ごせるような
特別な才能をもっている。 1 2 3 4 5 6 7 8 9
- 38 選挙において、時々ほとんど知らない人に投票する。 1 2 3 4 5 6 7 8 9
- 39 しばしば約束に遅れる。 1 2 3 4 5 6 7 8 9
- 40 現実の生活においてよりも
空想において物事をやり遂げる。 1 2 3 4 5 6 7 8 9
- 41 人に近づくのは苦手だ。 1 2 3 4 5 6 7 8 9
- 42 私は何も恐れない。 1 2 3 4 5 6 7 8 9
- 43 ある時には自分が天使であると思い、
ある時には悪魔であると思う。 1 2 3 4 5 6 7 8 9

私には全然当てはまらない 1 2 3 4 5 6 7 8 9 私にまったく当てはまる

- | | | | | | | | | | |
|--|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 44 負けるよりは勝ちたいと思う。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |
| 45 怒っている時は物事をきびしく批判する。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |
| 46 傷つけられると、あからさまに攻撃的になる。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |
| 47 もし誰かが私を傷つけても、それを寛大に許す。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |
| 48 新聞のあらゆる社説を毎日読んでいるわけではない。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |
| 49 悲しい時は自分の殻に閉じこもる。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |
| 50 性に関しては内気である。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |
| 51 知っている誰かが自分の守り神のようだと
いつも感じている。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |
| 52 私の人生哲学は、「(悪い事は)見ざる、
聞かざる、言わざる」である。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |
| 53 私の知っているかぎりでは、
人は善か悪のいずれかである。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |
| 54 もし上司が私をいらいらさせたら、仕事でわざと
ミスしたり、ゆっくりやったりして仕返りする。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |
| 55 皆が私に反対する。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |
| 56 好きでない人々に親切にしようとする。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |
| 57 もし自分が乗っている飛行機のエンジンが故障したら、
とても不安になるだろう。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |
| 58 何でもすることができて、絶対的に公平かつ
公正である人が知人にいる。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |
| 59 自分の活動の妨げになるような感情を
私は抑え続けることができる。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |
| 60 私を殺すことをたくらんでいる人がいる。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |
| 61 苦しい状況でも、
そのおもしろい側面を見つけることができる。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |
| 62 好きでないことをしなければならない時には
頭が痛くなる。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |
| 63 当然怒りを感じるべき人に対して、
自分がとても親切であることにしばしば気がつく。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |
| 64 「誰にでも少しは良い所がある」なんていうことはない。
もし悪いなら、その人はすべて悪なのだ。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |
| 65 自分が好きでない人に対しては、
けっして怒るべきではない。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |
| 66 人生において自分が不当な扱いを受けていると
確信している。 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |

私には全然当てはまらない 1 2 3 4 5 6 7 8 9 私にまったく当てはまる

- 67 ストレスを受けると混乱してしまう。 1 2 3 4 5 6 7 8 9
- 68 試験や採用面接のような困難な状況に出会うことが
分かったら、その内容を予測し対策を立てる。 1 2 3 4 5 6 7 8 9
- 69 医者は私のどこが悪いのか、
けっして本当にはわからない。 1 2 3 4 5 6 7 8 9
- 70 親しい誰かが死んでも私は動揺しない。 1 2 3 4 5 6 7 8 9
- 71 自分の権利のために戦った後で、
その主張について謝る傾向がある。 1 2 3 4 5 6 7 8 9
- 72 私に起こっていることのほとんどは私の責任ではない。 1 2 3 4 5 6 7 8 9
- 73 落ち込んでいたり不安な時には、
食べることで気分が良くなる。 1 2 3 4 5 6 7 8 9
- 74 一生懸命働くことで気分が良くなる。 1 2 3 4 5 6 7 8 9
- 75 医者は、私が自分自身の問題を克服することを
本当には助けることはできない。 1 2 3 4 5 6 7 8 9
- 76 しばしば自分の感情を見せないと人から言われる。 1 2 3 4 5 6 7 8 9
- 77 人は通常、映画や演劇や本に、実際にそこにある
以上の意味を見出していると私は信じている。 1 2 3 4 5 6 7 8 9
- 78 それ無しでは何か恐ろしいことが起こるような気のする
習慣や儀式がある。 1 2 3 4 5 6 7 8 9
- 79 緊張した時は薬やアルコールを口にする。 1 2 3 4 5 6 7 8 9
- 80 気分がすぐれない時には誰かと一緒にしようとする。 1 2 3 4 5 6 7 8 9
- 81 これから先の悲しい出来事が予測できたなら、
それにもっとうまく対応することができる。 1 2 3 4 5 6 7 8 9
- 82 たとえどれだけ不平を言っても、
けっして満足のいくような回答を得られない。 1 2 3 4 5 6 7 8 9
- 83 激しい感情を引き起こすような状況においても、
何も感じないことがしばしばある。 1 2 3 4 5 6 7 8 9
- 84 手近な仕事に集中することで、
気分が沈んだり不安になったりすることを避けられる。 1 2 3 4 5 6 7 8 9
- 85 緊張した時にタバコを吸う。 1 2 3 4 5 6 7 8 9
- 86 もし危険にあったら、
同じ問題を抱えている人を捜し出すだろう。 1 2 3 4 5 6 7 8 9
- 87 もし何か間違っただけのことをしても、
それを非難されることなどありえない。 1 2 3 4 5 6 7 8 9
- 88 もし攻撃的な考えをもったら、
それを打ち消すために何かをする必要性を感じる。 1 2 3 4 5 6 7 8 9